

続・ふるさと こぼれ話

三匹の獅子頭

東高橋の綱川幸平氏宅に、三体の獅子頭がある。桐材を彫刻し漆を塗ったもので、一体の頭には鳥の羽が植え付けられていた跡があり、二体の頭には益子町芦沼の獅子舞や真岡市中郷大日堂獅子舞と同形の角を埋め込んだ跡がある。こうした形態からこれらは芦沼獅子舞や大日堂獅子舞と同様、東日本に広く伝わる三匹獅子舞で使用されるものと思われる。

三匹獅子舞は、二匹の雄獅子と一匹の雌獅子がそれぞれ腹につけた小太鼓を打ち鳴らしながら、篠笛の調べに乗って舞い踊るものである。獅子舞は、もともとインドあたりで起こったもので、獅子(ライオン)の威力で悪霊を追い払おうとするものである。日本には奈良時代ごろ朝鮮半島から伝えられた。

当初は一匹の獅子を一人で舞うものであったが、室町時代の終わりごろになると三匹獅子舞が起り、江戸時代に入ると栃木県内でも行われるようになった。県内の獅子舞は、お盆の供養や二百十日または旧暦八月一日に行われる風祭りに風雨除けとして行われる場合が多い。明治生まれのお年寄りは、村の若い衆が、獅子頭をかぶって踊った話を聞いたことがあるという。かつては、東高橋で三匹獅子舞が行われていたようだ。三匹獅子舞は、集落ごとに行われ、獅子頭は集落の所有物となっているため、綱川家のように個人宅で保存されているのは極めてまれである。綱川家では今でも正月と盆の十三日には、三体の獅子頭を床の間に飾り、赤飯を供えるなど大切に保管している。これは、かつて県内で盛んに行われた三匹獅子舞の姿を伝えるものとして貴重なものである。



第48回

生涯学習課総合情報館推進係
☎028 (677) 2525

編集後記

□7月までに全国のたばこ自動販売機は「成人識別たばこ自動販売機」に変わります。先日テレビで、子どもが「たばこを自動販売機で買えないことが一番困ります」と言うのです。理由を聞くと「だって、お父さんのためにたばこを買ってきてあげられないから」と答えたのです。私は子どもの純粋な態度にハッと気づかされた思いでした。

□「私たちが日頃から取り組んでいることは、本当に子どものためになっているのだろうか？」そんな不安に駆られたとき、早速、子ども部屋に行ってみました。「バブー。バブー」と言う子どもの声に、うちの子はまだ生後6か月、話などわかるはずありません。

■「親の心、子知らず」「子の心、親知らず」わが家では当分解消できないようです…。

(K)

■編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp



☎芳賀町の携帯サイトはコチラから➔



L=50cm
スズメ目カラス科
Corvus corone (カーカーと鳴くカラス類)

町内で2種類のカラスが見られることを皆さんはご存じですか。この2種類のカラスは、正反対の性質です。留鳥として私たちの身近で生活していますが、秋から冬にかけて集団で群れを形成します。違いを簡単に対比表で表します。

	ハシボソガラス	ハシブトガラス
クチバシ	細い	太い
食性	種子食に近い雑食	肉食に近い雑食
鳴き声	ガーガーと濁る	カーカーと澄んでいる
全長	50cm	57cm
習性	家族単位での行動	群れでの行動
鳴く姿勢	頭と尾を下げ 背を持ちあげ腹を膨らませる	顔を前につきだし 尾を下げ翼を持ち上げる
ルーツ	南方より渡り住む	北方より渡り住む

～お知らせ～
7年間にわたり、町内で観察された野鳥を紹介をした「野鳥はともだち」も、今回でひとまず終了します。次回からは、昆虫や動物、魚等も紹介する新コーナー「芳賀の自然」をお届けします。
(しまたかし記)